

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度第4回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604(直通)		
開催日時		令和元年12月3日(火)午後2時30分～4時30分		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	その他	3人(生涯学習課担当課長、同副主幹、同主任)		
	事務局	8人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他5人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 議題 (1) 平成30年度図書館事業評価について</p> <p>2 その他 (1) 報告 ・事業報告及び館報発行報告 ・淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて (2) その他</p>			

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局等の発言)

### 1 議 題

#### ( 1 ) 平成 3 0 年度図書館事業評価について

事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

- 若い世代、特に子どもたちと保護者の世代の減少幅が大きかったことが気になった。利用しなくなったということもある一方で、利用できなくなったということもあるのではないか。共働き世帯の増加により、図書館に来館できないという状況は当然考え得る。そうした時に、3 ページ目の外部評価にある資料案内のように、図書館からの積極的な働きかけをいかに行っていくのかが重要と考える。評価の中で展示によって貸出が増加したという例があったように、小さな取組ではあるかもしれないが、開拓の余地が残っているということを感じた。
- これまで評価を行ってきた中では、図書館利用者に対してはきめ細かいサービスが展開されている一方で、図書館を利用したことが無い人をいかに巻き込んでいけるかが課題と感じている。その課題に対し、図書館だけで取り組むのは限界があるので、公民館や学校など他の機関と連携して、図書館を利用することのメリットを伝えていくことができると良い。
- 津久井地域は身近に図書館が無いが、公民館図書室で図書館にある本の取り寄せができることを話すと、図書室の利用につながることもある。そういった利便性がなかなか伝わっていないと感じている。

また、子育て世代は、図書館に行きたくても時間的な理由などで行けないという事情があるように思う。図書館の情報がなかなか得られずに利用に至らなかったり、スマートフォンで調べて済ませたりしている。

事業への参加やコミュニティの輪を広げるなど、図書館や図書室に足を運ぶことで得られる体験もあるので、数多くの情報の中から図書館の情報を届ける仕組みや、気軽に足を運べるような仕掛けがあると良い。

図書館利用の利便性が伝わっていないことについては、利用教育の取組が考えられる。図書館の基本的な利用講座や、情報リテラシーの取組はこれまであまり行っておらず、実施の余地があると考ええる。

また、子育てなど様々な理由で図書館への来館が難しい利用者に対しては、例えば図書館から資料を届けるサービスが考えられる。
- 来館できない方へのアプローチには両面があり、図書館から届けるサービスがある一方で、社会的孤立という課題との関わりでは、図書館という公の場に

足を運んでもらい、課題解決のきっかけをつくるという考え方もある。

11ページの来館に関する指標の課題にも挙げられているように、今の時代の公共施設や公的なサービスに求められるキーワードとして、安心・安全があるように思う。安心・安全を感じられたり、次につながったりといった成功体験が感じられる場があって、そこに足を運んでもらえるような上手な仕掛けが作れると良いのではないか。

観点は少し変わるが、武蔵野市にある図書館、武蔵野プレイスの地下2階に、ティーンエイジャーしか利用できない場所があり、そこはまさに安心・安全を特長としている。大人の目はあっても、それから逃れられるような隠れ家的な安心感を持って子どもたちが集まってきており、施設運営側でも、それを実現するための企画を仕掛けて功を奏している。

- 津久井地域の公民館図書室の話に関連して、図書室でも取り寄せができると言った時に、それがどの程度利便性を感じてもらえるかが肝要なのではないか。

例えば、多摩市の図書館では一部の資料を除いて、返却した館にそのまま資料が配架されるという仕組みを取っている。それによる課題もあるようだが、市民が受け入れている理由の一つに、図書館間の資料配送が1日2便あって予約資料がすぐに届くことが挙げられる。目の前に無い本でも予約すればすぐに届くことに利便性を感じているため、予約することのハードルが低く、そのことが資料の利用にも関わっているように思う。

図書館のサービスを伝えきれていないというのは、日頃感じている。情報発信は数多くしていても、伝えたい相手になかなか届いていないのが現状だとすると、ターゲットを明確にしてピンポイントに届ける工夫など、試行錯誤が必要と考えている。

- 現在とは異なるターゲットを探し、働きかけをすることも考えられる。例えば、読み聞かせの一つの利点として、一人の読み手がたくさん子どもたちに本の良さを伝えられることが挙げられるが、読み手となるのは、読み聞かせボランティアだけではない。幼稚園など、子どもがいる施設への働きかけをしてみても良いのではないか。
- 図書館の場合、非来館者は究極のターゲットであり、来館した方へのサービスだけではなく、来館してもらうにはどうするかも考えなくてはならない。相模原は市域が広く、図書館が近くに無い地域もあって、均質にサービスを行うのは難しい部分もあるが、現在図書館に来ていない人たちをどのように呼び込むかは、課題として方策を考えてほしい。
- 2ページの蔵書に関する指標の中で、内部評価として郷土資料の利活用を促進する取組が挙げられ、外部評価でも評価を受けている。この点について、取組の結果として、例えば地域の歴史などに興味を持った人たちがレファレンス

サービスを利用するなど、資料利用や情報サービス利用につながった事例はあるか。

具体的な事例は把握していないが、講座や展示等の取組を通じて、利用者が自身の関心をより深めるきっかけになっているのではないかと推測している。

- ある研究において、レファレンス協同データベースに登録された質問と、Web上のQ & Aサイトに寄せられた質問の主題を比較したところ、後者は生活に身近な質問が多いのに対し、前者は歴史に関する質問が最も多いという結果がある。

また、10月に開催された日本図書館情報学会のシンポジウムのテーマがデジタルアーカイブだったが、登壇者からは、その地域に特有のものについては、今集めておかないと消えて無くなってしまいが、きちんと収集さえしておけば後世につながるというお話があった。

図書館が全方位的にサービスを行えば良いが、縮小社会という課題もある中でどこに優先順位を持たせるのかを考える際には、地域や歴史というキーワードが突破口となり、そこからレファレンスサービスや資料の利用、来館につながるかもしれないと感じた。

- この事業評価シート案については、今後、どのようにまとまるのか。  
いただいたご意見等を踏まえ、図書館として最終的なとりまとめをさせていただきたい。

## 2 その他

### (1) 報告

- ・ 事業報告及び館報発行報告

事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

- 各館で実施している企画展示について、時期によって展示内容が入れ替わっていくものと思うが、過去に展示した内容を利用者が振り返る手段はあるのか。  
展示スペースの様態替えを行うので、終了した展示を振り返ることはできない。

- 事業報告を見た時に、例えば3ページの市立図書館の展示「ひとりじゃないよ あなたの“生きる”を応援したい」が目飛び込んできて、どのような本が展示されていたのか知りたいと感じた。目的を持たないで図書館を訪れた時に、過去の展示内容を振り返る手段や機会があると、プロが選書し展示した本を知ることができ、来館者の興味を惹くのではないか。その時期に行っているものだけでなく、これまで展示をした本を紹介するという提案の方法もあると思う。

相模大野図書館では、12月にこの1年を振り返る展示を行うが、そこでは今年実施した特集展示の本を並べたいと考えている。

- そのことに関連した質問として、ブックリストは展示の際に作成しているか。毎回作成しているのであれば、データをホームページで公開したり、印刷したものを配布したりできる。また、書誌に展示情報を入力し、OPACから検索できるようにする方法も考えられる。

ブックリストについては全てではなく、一部の展示で作成している。

- 検索エンジンで自然文検索をした際に、図書館の資料に辿り着くような仕組みは取れないだろうか。例えば「相模原市立図書館」と借りたい本のテーマをキーワードに検索した時に、図書館の資料がヒットするような仕組みができるとうい。
- 一つの方法として、図書館の蔵書データをGoogle等の検索エンジンに公開し、検索でヒットさせることが考えられる。あるいは、ブックリストであれば図書館ホームページにテキストで公開し、検索エンジンにクロールさせるという方法が考えられる。SEO対策は悪い印象を持たれた時期もあったが、検索で見つけてもらえるように情報発信をしていくなど、積極的な働きかけは必要ではないか。

企画展示のブックリストの公開については、今後検討したい。

- 市立図書館の事業報告にある、子ども読書スタンプラリーの参加者数はどれぐらいだったのか。

平成30年度の実績では、4館合計で1,282人だった。

- 橋本図書館から紹介があった特別展示「ともに生きる社会かながわ」に関連して、他の展示やイベントを見た時に、多様性に関わるテーマが少ないように思う。例えば、市在住の外国人や日本語母語話者以外の方々など、マイノリティに対してアプローチをするような展示やイベントが少ないと感じた。
- 一つ一つの取組は素晴らしいと思うが、取組全体を俯瞰的に見て、テーマのバランスを取る視点も必要ではないか。世間で話題になっているテーマもあれば、啓発的なテーマで知識や情報を広めるなど、年間を通じて多様性のある取組が展開できると良い。

啓発的なテーマについては、庁内の各セクションとも連携し、各セクションが作成した啓発用の展示物を活用しながら、図書館の関連図書も交えて展示を実施している。展示等のテーマが偏ることなく、できるだけ幅広い分野にわたるように心がけて取り組んでいきたい。

- ・ 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて

生涯学習課から資料に基づき報告した。また、有識者協議会の小山委員と、市

民検討会の高柳委員から、次のとおり報告及び質疑応答があった。

- 市民検討会へ参加してきて、毎回淵野辺の地に対する愛着が伝わってくる。  
前回、前々回と今後のスケジュール等について説明があり、その中で公募委員の任期に関する質問があった。これまで議論を重ねてきた委員の方々にとっては、今年度の任期満了が近づき、今後の関わりについて不安が生まれてきているので、その点については早めに検討いただきたい。  
また、市民検討会には多くの委員が参加しているが、意見が出る方と出ない方に分かれてしまっているように思う。主に地域にお住いの方から活発に意見が出ている一方で、グループワークを除くと、発言しないままに終わってしまう方もいる。自分も淵野辺に住んでいないこともあり、どうしても一歩外から見ってしまうような感覚があって、なかなか発言しにくいと感じている。様々な考えをお持ちの方が集まっていると思うので、それぞれの発言が生まれやすいような環境になっていくと良い。  
市民検討会の委員の任期については一年間としているが、今の公募委員から任期を継続してほしいとの御意見をいただいている。本検討会だけではなく、市全体の審議会等において委員公募に関する統一した考え方があるため、取扱いについて考えているところである。  
また、次回からは施設の配置や機能の組み合わせの検討に入り、手を動かしながら作業やグループワークを行うことを予定している。その中で、ファシリテーターも職員も、各委員がそれぞれの発言やアイデアを出せるような工夫をしていきたいと考えている。
- 市民検討会を重ねてきて、ある程度課題は共有されてきていると感じる。資料にもあるように、オープンハウスで市民に投げかけた時にも、同意を得られるような意見が出てきている。そのことを踏まえた上で、内容的に二つの課題を抱えていると考えている。  
一つは、鹿沼公園内へ公共施設を配置するかどうかについて、同意を得られていない点である。公園ワーキンググループにおいては、公共施設の検討とは離れた形で、現状の鹿沼公園のあり方をベースに、いかに変えていくかという視点で議論が進んでいるように感じている。次回の市民検討会では、公園から見るとまちづくりという内容で有識者から講演があるが、現状の公園のあり方だけではない視点が得られるのではないかと期待している。また、模型を使って施設配置の議論をする試みがあるようなので、作業をする中で様々な発言やアイデアが生まれるのではないかと期待している。  
もう一つは、地域的な課題と全市的な課題が層を成しているという点である。

淵野辺駅南口周辺のまちづくりには、生活環境も含めた周辺地域のまちづくりの検討があると同時に、全市的な課題に対し、公共施設等を活用して解決するという視点も含まれており、各委員の拠って立つ位置によって、発言の仕方や強さが変わってきているように思う。地域的な課題と全市的な課題の整合性を取っていくことの難しさがあり、そのことが市民検討会における発言等の難しさの一因にもなっていると感じる。

- 市民検討会の中で、新しいまちづくりの成功事例を見てみたいという意見が挙がっていたと思うが、今後予定はあるか。

事例については、実際に行ってみないとなかなか伝わらないという難しさもあるが、こういう事例があるということをどのタイミングで見させていただくのが効果的なのかも考えながら、準備をしていきたい。

## 2 その他

次期図書館基本計画及び子ども読書活動推進計画について、本協議会において御審議いただきながら策定を進めてきたところだが、今後は、12月の中旬からパブリックコメントを実施し、いただいた御意見等を踏まえた上で最終計画案をまとめ、3月の教育委員会で御審議いただく。次回の図書館協議会は2月～3月頃を予定しており、そこでパブリックコメントの結果については報告ができるものと考えている。

計画において、子どもの読書環境の充実や広い市域に対する全市的なサービス、中央図書館機能等を明示できたことは、図書館施策を進めて行くにあたり、非常に意義のあることと感じている。委員の皆様には、約1年間にわたり御審議いただいたことに感謝するとともに、引き続き本市図書館行政へのお力添えをお願いしたい。

以 上

## 相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	鈴木 良雄	専門図書館協議会事務局	出 席
2	副 会 長	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
3	委 員	朴木 昇	相模原市立中学校長会	欠 席
4	〃	佐藤 正文	相模原市立小学校長会	欠 席
5	〃	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	欠 席
7	〃	小山 憲司	中央大学文学部教授	出 席
8	〃	井狩 芳子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
9	〃	三木 涼子	公募	出 席
10	〃	水田 繁生	公募	欠 席